

標を突破し好調を続けている 大朝 0729 朝日 0722

○石炭統制會で昭和 18 年度第一四半期の出炭状況調査の所東嶺局を筆頭に何れも目標を見事に突破した 日産 0729

○日鐵、鋼管は立地轉換し内地原料を中心とする銑鐵増産に成功 日産 0722

○鐵鋼増産の完遂を期し統制會で實施中の夏期皆働運動 7 月上旬出勤成績は各作業所何れも好成績 日産 0818

○八幡製鐵所では航空機用特殊鋼の増産に敢闘している 日産 0818

○本年度重要鐵物超非常増産期間中に於ける各鐵物の生産量の 8 月第 1 旬の實績が明かとなりマンガンを初め何れも目標を突破している 産日 0815

○釜石製鐵の増産状態好調僅か一ヶ月で7-9月の目標量を突破 大毎 0721

○マンガンの本年度第一四半期生産成績は昨年に比して1割2分方の増産を示してゐる 新興マンガン地帯の開発に注目すべきものあり 日産 0723

○重點産業の第一四半期の成績發表さる鐵鋼部門は全部目標確保 朝日 0729

○滿洲國に於ける上半期鐵石炭等の増産は順調、下半期期待さる 日産 0725

回 收

○大阪府では第 3 次鐵鋼買上特別調査班の報告會を開催した 大阪 0606

○高知市内の非常金屬回收が開始された 高知 0728

○京城では金屬回收に夏休を返上して中學生も協力好成績を収めてゐる 京日 0801

○第三次鐵鋼強制買上げは 31 日締切、未申入者の注意を喚起した 日産、朝日、毎日 0731 鹿日 0802

技術操業の向上

會 議

○第一回北海道マンガンクローム技術者會議が開催された 北海 0724

○鐵鋼統制會では製鋼作業の全般的機械の具體的研究をするため關係各製鋼會社と第一回製鋼作業機械化技術懇談會を開催した 日産 0729

調 査

○能率協會では足尾、花岡兩嶺山の能率調査を行つた 日産 0731

○鐵鋼統制會では鐵鋼の飛躍的増産を期すべく今回技術部主催で12

月より5月間會員工場希望者技術者の製鋼作業、機械化實況見學會を八幡、廣畑、神鋼、厄鋼、川鋼にて開催する事になつた 日産 0808

意見改良考案

○學振では依國一博士を中心として熔鋼の迅速分析法を完成した 日産 0724

○銅合金用の金屬ベリウム電解法に成功した 日産 0815

○東海電極に於て特殊鋼用電極の代替品が完成された 日産 0813

○今次戦争により刀匠界では鍛刀の秘法を公開各流派つて刀劍報國の誠を盡してゐる 日産 0807

○「からみ」と黒鐵より銅、鉛、亞鉛の分解抽出に成功、愈々本格的操業を開始した 日産 0721

○日本製鋼所では新高射砲試作に成功して陸相より表彰された 大朝 0805

○住宅管工技師越智隆晴氏が虎、と稱す優秀な鋼板鋼製壓入式ペルを考案した 日産 0814

○商工省技師末野禎六氏により褐鐵礦より海綿鐵の精製を試験的乍ら成功した 中日 0731

○鐵鋼統制會では技術、整備兩部が共同研究を行つた結果、染料滓を製鐵原料に活用することに成功した 日産 0805

○鐵鋼統制會では製鐵原料轉換方策としてタ、ラ滓を高爐原料に使用することになつた 日産 0723

○焼結爐を設け沼鐵礦を活用することになつた 日産 0804

○砂鐵からの原鐵精鍊の電氣爐が完成された 青島 新報 0722

○工場防空の具體策 朝日 0807-0808

○第 6 次敵性特許處分が發表された 朝日 0720

習 練

○商工省では中小嶺山に對し新選礦技術の指導を徹底的に行ふことになつた 日産 0817

○兼二浦に鐵鋼戰士の練成場が開かれた 京日 0727

米 國

○米國産業界は資材勞力の不足著しく生産計畫に混亂を來してゐる 朝日 0814

○米國の軍需生産は原料不足から漸く停頓状態に入つた 朝日 0721

○米國の金屬回收は不成績である 日産 0803

○米國の軍用機月産は 7300 臺と發表された 朝日 0809

○米國は修正軍需生産計畫を發表した 日産 0814

○米イリノイ州に於ける炭坑罷業は炭坑側に凱歌あがる 朝日 0724

(803 頁から)

- 川村 信一君 (室蘭高工教授)
- 佐野 正夫君 (北海道工業試験所技師)
- 阿部 象一君 (室蘭第一工務部長)
- 萩原 巖君 (室蘭技研第二部長)

5. 昭和 18 年度第 2 回評議員會

日 時 昭和 18 年 8 月 6 日

場 所 書狀を以て評議に代ふ

出席者 94/112

議 題 昭和 18 年 7 月 26 日附を以て本會北海道支部設立に關し同委員長前川清君外 9 名より承認方申請の件

(別項支部規則参照)

決 議 出席者全員異議なく承認

6. 野田文庫委員會 (昭和 18 年第 1 回)

日 時 昭和 18 年 8 月 6 日

場 所 書狀を以て會議に代ふ

出席者 22/25

議 題 1. 用紙節約のため當分の間圖書目錄印刷に代ふるに一部訂正の程度に止めたき件

2. タイプライター修理不能に付き一臺購入の件

決 議 出席者全部異議なく承認

日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和 18 年度第 5 回)

日時 昭和 18 年 17 月 6 日 (火) 自午後 5 時 30 分至午後 8 時

會場 協會々議室 出席者 會長以下 13 名

協議事項

1. 月例講演會通知方法改正の件
2. 研究會報告の印刷部数を節減の件
3. 野田文庫圖書目錄を略式印刷の件承認
4. 學振第 25 小委員會, 金屬學會, 機械學會聯合にて金屬の疲勞に関する聯合座談會を開催の件承認
5. 昭和 18 年 5, 6 月分收支決算報告審議

會員異動統計表 (6 月 1 日~6 月 30 日)

名 會	維持會員		贊助會員	正會員	准會員	計
	會員數	持口數				
入會者	(+12)	(+37)	--	+25	+68	+105
退會者	--	--	--	-3	-3	-6
死亡者	--	--	--	-2	-2	-4
轉格者	--	+2 (+3)	--	+23	-25	--
6 月末現在會員數	17	74 (200)	24	2811	3610	6536

備考 維持會員口數 40 口の増加は

新入會 12 社 18 口 轉格 2 社 6 口及び

現在維持會員 10 社 19 口の増加に依る

退會者氏名 正會員 岡田武一君 インソライト工業
會社東京支店君 陸路 録君
准會員 小磯五郎君 板谷吉次郎君 池田三千雄君

正會員	木下 亮吉君	昭和 18 年 8 月 5 日
正會員	柴田 仁作君	昭和 18 年 4 月 30 日
准會員	熊谷 博君	
准會員	宮田 義雄君	昭和 18 年 2 月 不詳

逝去せられたり哀悼に堪へず、茲に謹みて弔意を表す

報告事項

1. 第 29 回研究部會第 16 回製鋼部會第 1 回鹽基性平爐研究會

日時 昭和 18 年 6 月 5 日 (土) 自午後 0 時 30 分至午後 6 時 30 分

場所 協會々議室

出席者 委員長 吉川 晴十君 外 22 名

議事 (1) 開會の挨拶並に委員會設立の經過報告

吉川委員長

(2) 本委員會に對する要望 佐々川委員

(3) 參考文獻説明 芥川委員

(4) 研究事項 (5) 決定事項 省略

2. 編輯委員會 (昭和 18 年度第 4 回)

日時 昭和 18 年 9 月 17 日 午後 5 時 30 分~午後 7 時

場所 協會々議室

出席者 理事石原善雄君外 8 名

協議事項

- (1) 月例講演會通知方法
- (2) 研究會報告印刷部數節減
- (3) 會誌 8 月號掲載論文銜

3. 月例講演會 (昭和 18 年度第 2 回)

日時 昭和 18 年 6 月 22 日 (火) 自午後 6 時 30 分至午後 8 時 40 分

場所 帝國鐵道協會々館

出席者 196 名

講演 鋼の變態理論と超短時間加熱鋼の新組織

大阪帝國大學教授

工學博士 工學士 岡田 實君

映畫 ニュース 數卷

理事會 (昭和 18 年度第 6 回)

日時 昭和 18 年 9 月 1 日 (水) 自午後 5 時 30 分至午後 8 時

會場 協會々議室

出席者

協議事項

1. 第 30 回講演大會實施に關する件
2. 實業教育振興中央會よりの照會に對する回答の件は河村 駿君へ意見取纏め方を御依頼すること
3. 鋼鑄物研究會報告出版の件
4. 昭和 18 年度 7 月分收支決算報告審議

會員異動統計表 (7 月 1 日~8 月 31 日)

名 會	維持會員		贊助會員	正會員	准會員	計
	會員數	持口數				
入會者	+5	(+8)	--	+70	+105	+180
退會者	--	--	--	-6	-16	-22
死亡者	-1	--	--	-3	-5	-9
轉格者	--	--	--	+2	-2	--
8 月末現在會員	16	79 (208)	24	2874	3692	6685

[註] 本會維持會員數は久敷 60 社 (口數 159) に止まりしところ、本年 5 月中豊田製鋼株式會社殿新規 1 口御加入あり 61 社 (口數 160) となりたり。

然るに 5 月理事會に於て維持會員増加の必要を感じ多方面に互り勧誘の結果次の通り 19 社口を増加し現在維持會員數は 80 社 (口數 208) となりたり感謝に堪へず

- 1). 新に御入會のもの (先着順) 19 社 28 口

淺野セメント株式會社殿 1 口

株式會社荏原製作所殿 1 口

鐘淵實業株式會社殿 1 口

野村製鋼株式會社本八幡工場殿 1 口

日本冶金工業株式會社殿 1 口

日本ピストンリング株式會社川口工場殿 1 口 (802 頁へ)

- 東海電極製造株式會社殿 2口
- 日本鐵工株式會社殿 2口
- 日本電氣冶金株式會社殿 2口
- 三德工業株式會社殿 1口
- 川崎窯業株式會社殿 2口
- ヂーゼル自動車工業株式會社殿 2口
- 株式會社東京石川島造船所殿 1口
- 理研工業株式會社殿 2口
- 株式會社神戸鐵鍛所殿 1口
- 住友電氣工業株式會社殿 1口
- 住友機械工業株式會社殿 1口
- 財團法人日本海事振興會殿 1口
- 昭和電工株式會社殿 2口

2) 在來の口數を特に御増加願ひしもの(先着順)11社にて20口を増加

- 株式會社久保田鐵工所殿 3口に増加
- 小倉製鋼株式會社殿 3口に増加
- 株式會社小松製作所殿 3口に増加
- 芝浦共同工業株式會社殿 5口に増加
- 大同製株式會社鋼殿 1口に増加
- 特殊製鋼株式會社殿 3口に増加
- 株式會社日本製鋼所殿 6口に増加
- 株式會社本溪湖鐵公司殿 5口に増加
- 三菱製鋼株式會社殿 5口に増加
- 日本鋼管株式會社殿 10口に増加
- 黑崎窯業株式會社殿 2口に増加

18-5-21 現在に比し 19社 48口を増加し

18-8-31 現在の維持會員 80社 208口

備考 維持會員口數 8口の増加は

新入會 5社 7口 及び 現在會員 1社 1口の増加に依る
〔註〕

轉格者氏名

准會員より正會員へ

蟹井秀彦君 小合康長君

退會者氏名

- | | | |
|-----|------------|---------------|
| 正會員 | 出羽 政助君 | 近藤鋼商店東京支店君 |
| | 平野 重康君 | 山田 豊君 三宅新次郎君 |
| | 佐藤特殊鋼株式會社君 | |
| 准會員 | 伊藤榮一君君 | 太田 圭之君 安齋榮太郎君 |
| | 手塚 博君 | 鈴木 富雄君 山口 政吉君 |
| | 磯波六三郎君 | 木村 喬夫君 赤穴 安正君 |
| | 木村 康君 | 篠原 繁義君 新 毅君 |
| | 大島 義一君 | 小島 眞五郎君 齋藤 充君 |
| | 小堺 順造君 | |

報告事項

1. 月例講演會(昭和 18 年度第 3 回)

日時 昭和 18 年 7 月 13 日(火)自午後 6 時 30分至午後 8 時 30 分

場所 帝國教育會館 出席者 41 名

講演 鋼材節減を目的とする高力鋼の研究
日本鋼管株式會社技術研究所次長

藤原 唯義君

名譽會員	牧田 環司	昭和 18 年 7 月 6 日
正會員	河合 敏郎君	昭和 18 年 6 月 25 日
正會員	大嶋 十郎君	昭和 18 年 7 月 10 日
正會員	市原 通敏君	昭和 18 年 8 月 19 日
准會員	羽鳥 隆榮君	昭和 18 年 5 月 26 日
准會員	森 靖君	昭和 18 年 1 月 11 日
准會員	山下 弘作君	
准會員	井上 廣雄君	昭和 18 年 6 月 20 日
准會員	吉永 市郎君	昭和 18 年 7 月 29 日

逝去せられたり哀悼に堪へず、茲に謹みて用意を表す。

映畫 造船挺身隊 四巻

2. 編輯委員會(昭和 18 年度第 5 回)

日時 昭和 18 年 7 月 14 日(水)自午後 5 時 30 分至午後 8 時

場所 協會々議室 出席者 理事石原善雄君外 6 名

協議事項 1. 9. 10. 月號會誌論文選定

協議事項 1. 會誌發行進捗狀況 2. 鐵鋼要覽 8 月中に印刷製工の見込

3. 學報第 25 小委, 金屬學會, 機械學會, 鐵鋼協會聯合にて繰返應力座談會

日時 昭和 18 年 7 月 24 日(土)自午後 1 時至午後 7 時

場所 東京ステーションホテル

出席者 小野 鑑正君 眞島 正市君 橋本 宇一君
松下 長久君 依 國一君 等 60 名 外に傍聴者 7 名

座談會次第 1. 自午後 1 時 30 分至午後 5 時 鐵鋼協會々長開會の辭 次で機械學會長, 金屬學會々長講話, 次で西原利夫君(學振) 大柴 文夫君(金屬) 志村 繁隆君(鐵鋼). 木谷要一君(機械)の意見發表 2. 自午後 5 時至午後 6 時 座談會

4. 北海道支部設立の件

(1) 昭和 18 年 7 月 22 日 北海道支部準備委員長前川 清君より會長宛設立承認申請

(2) 右に關し評議員會開催の結果 異議なく承認(18-8-6通達)

(3) 北海道支部役員氏名。(順不同)

支部長前川 清君(日本製鋼室閩所長取締役)

評議員(幹事) 伊能 泰治君(日鐵輪西所長)

平田 實君(日鐵輪西技師長)

荒川 直三君(日鐵輪西監理部長)

柴田 善一君(北大理學部教授)

小林佐三郎君(室蘭技研第三部長)

太田 繁一君(室蘭技研第一部長)

評議員 川原 有美君(日鐵輪西製鐵課長)

大町 政利君(日鐵俱知安鐵業所長)

大塚 辰三君(函館船渠本社技術部長)

伊藤 謙三君(函館船渠室閩工場長)

日野 律郎君(夕張製作所常務)

西村 正君(日本冶金栗山工場長)

森 俊一郎君(日鐵爐材工場長)

阿久津國造君(北大工學部教授)

早矢仕 功君(北大工學部教授)